

# 舟山

発行者  
幸田町立南部中学校  
鈴木 一也  
第126号

## 結華～人とのつながりを大切に～



お台場にて（修学旅行）

一学期末テストを終え、運動部は夏の大会に向け、日々練習に励んでいます。

さて、六月は三年生が修学旅行(四～六日)に出かけ、二年生は多くの事業所に協力いただき職場体験学習(五～七日)を行いました。一年生は、初めて消防団体験教室に参加しました。普段ではなかなかできない貴重な体験を通して、礼儀、人とのつながり、笑顔など多くのことを学びました。これからの活動に生かしていきたいと思えます。

### 修学旅行を終えて

三年 松本 空知

修学旅行では、スローガン「結華」にもあるように、人との結びつきを大切にするため、礼儀を意識しようと心がけました。修学旅行中、全体としては挨拶ができていた一方、周りをあまり見ていない場面もありました。そこで、もう一度「結華」の意味を考え、班別研修やデイブリーシーから戻る時に、気持ちを切り替えて行動することができました。

また国会議事堂や「そなエリア東京」での見学や防災学習、デイズニージーで班ごとに思い切り楽しんだことなど、本当に思い出に残る修学旅行になりました。

修学旅行で意識した「礼儀」を、これからの生活でも意識し、「心華学年」がさらに成長できるようにしたいです。



そなエリアでの様子（防災学習）

### 狂言の基本って？

三年 山崎 颯志

私は文化鑑賞会でのワークショップ体験で、狂言の基礎的な動作の一部をプロのかたに教えていただきました。

ワークショップ体験では、狂言の基本的な立ち方である、「尻ひっこめ、膝ちょい曲げ、背筋びんして、胸を張り、手をグツジョブにし、親指を人差し指にしよう」という体勢をやってみました。これをすり足で左足、右足とくり返すのが、結構きつかったです。

その後、「附子(ぶす)」と「茸(くさびら)」の二作品を見ました。「附子」は、dachou倶楽部の「押すなよ」の落ちみたいでした。「茸」は、茸役の人たちの体勢が、膝をつかずに屈んで立つ姿勢がきつそうでしたが、とても機敏に動いているところを見ただけでも、狂言の世界は深いなと思いました。

将来、何かの機会があれば、狂言に挑戦してみたいです。



狂言を見る2・3年生

### 職場体験を終えて

二年 池野 夢月

私は、豊坂小学校に職場体験へ行き、三年生に配属になりました。とても元気に挨拶や返事をする小学生の姿に感心しました。私たちが意識しているけれど、明るく、元気に挨拶をすると相手もよい気持ちにさせてくれると改めて感じました。先生が話の中で、「相手のことを考えて行動するのいいよ」と教えてくれました。相手がどうしてほしいか考えると自分の行動にも責任がもてるので、今後少しずつ実践していこうと思いました。

子どもたちは私を遊びに誘ってくれたり、話しかけたりしてくれて本当に充実した三日間を過ごさせてもらって感謝の気持ちでいっぱいです。これからの生活では、教えてもらった誰かのために動くということと、挨拶や返事など当たり前のことをレベルアップしていきます。



小学生に教える（職場体験）

### 職場体験を終えて

二年 山北 拓篤

私は幸田町消防署で職場体験をしました。

多くの体験をさせてもらった中で特に印象に残っているのは「放水」の体験です。水が出るときのホースの重さ、威力は想像以上のものでした。

また、体験先で「雰囲気の大切さ」について学びました。訓練の中で「人を助ける」という気持ちを全員がもち、声掛けをしながら仕事をしていました。

ただ、人を助けるためには思いだけではできないこともわかりました。厳しい訓練や勉強をすることで、人の命を助けます。これからの学習や部活動に対して必死に打ち込みたいです。



消防訓練に挑戦 (職場体験)

### 自分を変えたプール掃除

一年 河合 百花

最初に掃除をしたときは、友達と楽しくやり、隅々までできていないことに気づかないまま「きれいになったな」と思っていました。しかし、先生が確認するともう一度掃除をし直すことになりました。今度は一人で掃除をしました。そこでやっと自分の掃除が甘かったことに気がつきました。

プール掃除で掃除の大切さを知ったので、学校のロッカーや家の中などもきれいにしていきたいと思いました。また、掃除場所に合う道具を使うとよりきれいになることにも気づきました。

掃除の目的は使えるようにすることです。今回の掃除を忘れずに大切に使っていきます。プールもびかびかになり、気持ちのよい掃除ができて、心まですっきりしました。



プールサイドを磨く一年生

### 地震の恐怖を感じた起震車体験

一年 入枝 うつき

私は、これまで強い地震を経験したことがなかったので、すごく怖かったです。震度六強のゆれは思っていたより強く、とても危ないと思いました。これ以上の震度七があると考えると恐ろしいです。ふだんの二十秒はあまり長く感じませんが、地震の二十秒はすごく長く感じました。物が壊れたりするので、いち早く頭を守ることが大切だと思いました。

なまず号では、机が床に固定されていました。固定したり、安全な場所に移動させたりして、危険を少なくしていきたいです。避難所での生活を考えて、必要なものを簡単に持ち出せるように、玄関の近くに準備しておきたいです。また、家族と避難場所を決めて、すぐに避難できるようにしていきたいです。



強い揺れに耐える一年生

### 貴重な体験ができた消防団体験

一年 高木 悠幹

消防団体験活動では二時間という限られた時間でしたが、消防車を見ながらの機材説明、放水体験など数多くの貴重な体験ができました。実際に体験してみると、状況によって車を使い分けたり、狙った場所になかなか放水できなかったり大変なことがたくさんあることがわかり、楽しさだけでなく、難しさを感じました。消防団のかたは私たちと違い、素早い動きで放水活動などされていて、私の目にとってもかっこうよく映りました。

今回の活動を通して、消防団は火災から人の命を守る大切な組織だとわかりました。消防団のおかげで、私たちは安心して大好きな幸田町で過ごしています。この経験をきっかけに消防団の活動について知り、私たちも幸田町に住む人たちのために役に立てる人になりたいと思いました。



放水体験